

- 1 学校教育目標 心豊かに、たくましく生きる子の育成
- 2 教育方針 **地域から愛される学校づくり**
 ～スローガン「みんなで育てよう」～
- 3 学校づくりの基本理念 【地域から愛される学校づくり】の推進
 - ・学校は、子どもたちにとって「学んだことが身につく場」である
 - ・学校は、子どもたちにとって「人としての生き方を学ぶ場」である
 - ・学校は、地域の中にあって「家庭や地域と連携して子どもたちを育てる場」である
- 4 めざす児童像
 - ・明るくたくましい子 (思いやりの心を持ち、あたり前のことがあたり前に行動ができる子)
 - ・よく考えやりとげる子 (学習規律を大切にし、聴いて考え、伝え合い、根気強く取り組む子)
 - ・協力し進んでやる子 (みんなのために、自分から、積極的に活動する子)
- 5 めざす教師像
児童は関わる教師によって変わる 指導力＝徹底力
 - ・子どもの成長に喜びを感じ、率先垂範により範を示す教師
 - ・責任と使命感を持ち、教育指導力向上をめざし、学び合い、高め合う教師
 - ・教育公務員として自覚ある言動を行い、地域や保護者に信頼される教師
 - ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる教師
 - ・共通理解した取組については確実に実践できる教師
- 6 学校の現状と課題
 - (1) 学びの姿勢について
 - ・授業終始の挨拶はしっかりとできるので継続して指導していきたい。
 - ・話を聞く態度については指導の成果がどの学年にも見られる。自分の意見と比べながら反応して「聴く」力はまだ身に付いていない。
 - ・話し方に関しては、相手意識をもって伝えようとする力が不足している。
 - ・学力調査等の結果分析から、目的や条件に応じて「書く」こと及び必要な情報を「読む」ことを苦手としていることがわかる。
 - ・家庭学習時間の平均は概ね目標時間に達しているが、個々で差が見られる。また、授業とリンクした予習はまだ不十分である。
 - ・英語学習には楽しく取り組む児童が多い。英語専科の専門性を生かして、児童の英語学習への興味関心をさらに高める必要がある。
 - (2) 豊かな心の育ちについて
 - ・読書の好きな児童は多いが、質的には課題が見られる。
 - ・異学年集団活動では高学年がリーダーシップを発揮している。今年度も異学年集団活動を充実させ、関わり合いの機会や高学年のリーダー育成を図る必要がある。
 - ・児童の頑張りの見える掲示物が多い。周囲の評価を加えることでさらに児童の自己有用感を高めることができる。
 - ・進んで自分の生活を見直し、自分の置かれた状況について思慮深く考えながら自らを節制する力が弱い。今年度の道徳の重点内容項目に、節度・節制を加える必要がある。
 - ・低学年から温かい関わり合いを育む人権教育が求められる。
 - ・ほとんどの児童は挨拶、服装、下足揃え、無言清掃などあたり前のことが当たり前にできる。しかし、「時間を守る」に関しては、若干弱さが見られる。
 - ・学校貢献の精神もやや弱い。
 - (3) 健やかな体と危機管理意識について
 - ・いじめを許さない風土はある。今年度も定期的な調査とその共通理解、児童会との連携を図る必要がある。

- ・体力調査の結果から運動能力の向上は著しい。しかし昨年度に引き続き柔軟性を高めることが課題である。
- ・スピード（50 M）も課題である。スポチャレいしかわの種目も体育の授業に関連づけて行い、基礎体力を高める必要がある。
- ・昨年度は災害の避難訓練、不審者対応は行った。しかし、コロナ禍で引き渡しの訓練を実施することができなかった。
- ・遅刻気味の児童が数名いる。午前中授業に集中できない児童もいる。家庭との連携で「早寝・早起き・朝ご飯」特に「早寝」の徹底が求められる。
- ・ゲームやメディアに費やす時間が学年が上がるにつれ増加している。

7 今年度の学校経営重点目標

- ①授業改善と学力向上
 - ②豊かな心と社会性の育成
 - ③健やかな体と危機管理の育成

8 重点目標達成のための具体的取組

(1) 授業改善と学力向上

- ・学習ルールの確認や徹底、家庭学習の習慣化を図り、学習習慣を定着する。
- ・「いしかわ学びの指針12か条+」に基づいた授業・基盤・体制づくりに努める。
- ・学習指導要領実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を行う。
- ・勉強がわかる楽しさを実感させ、自分の考えをもち、つなげて話す力の育成を図る。
- ・児童の実態に応じた指導の工夫を通し、学習意欲の向上を図り、学んだことを定着させる。
- ・chromebookを活用した新しい授業づくりやプログラミング教育の推進を図る。
- ・積極的に英語検定を受験させることで、英語学習への自信を高める。
- ・児童の困り感を把握し、個に応じたきめ細かな対応を工夫し、特別支援教育を充実していく。
- ・聞く・話す・読む・書くなど表現力を高める場を設定し、言語活動の充実を図る。
- ・学力調査から学習到達状況を把握し、課題改善に向けて計画的・継続的な指導をする。
- ・教育委員会指導主事等の要請訪問やサポート研修を積極的に活用し、指導力向上を目指す。

(2) 豊かな心と社会性の育成

- ・市立図書館や図書ボランティアと連携しながら読書活動を推進するとともに、朝読書の工夫を図り、読書の質を高める。
- ・道徳教育や体験活動、キャリア教育の充実を図り、希望・勇気・努力、節度・節制、ふるさとを愛する心と関わりの合いの心を育て、これからの生き方づくりにつなげる。
- ・異学年交流で思いやりや協力する態度を育てると共に、校内貢献活動を積極的に進め、その活動を地域にも広めることで、「地域から愛される学校づくり」を推進する。
- ・児童会活動や各種行事などで活躍の場を設定し、自己肯定感や自己有用感を高め、学校活動への参画意識と愛校心を育てる。
- ・児童の頑張りを見える化する掲示物の工夫を図り、児童の自己有用感を高める。
- ・挨拶、服装、下足揃え、時間厳守など凡事徹底を図り、全校児童を褒めの対象とし、全校でできた喜びを感じさせる。
- ・伝統芸能の継承や里山里海の豊かな自然を生かした教育活動に積極的に取り組み、地域から必要とされる人材を育成する。
- ・特別支援教育において、児童理解と指導方針の共通化を図ると共に、保護者及び関係機関と連携し、自己肯定感を高め、自信を持って学校生活を送れるよう支援する。

(3) 健やかな体と危機管理の育成

- ・学校での居場所作りや絆づくりの活動を進めることで不登校やいじめの未然防止につなげる。
- ・児童によるいじめ防止集会等を開催し、児童がいじめの未然防止に真剣に向き合う機会を設ける。
- ・体育などのスポーツ活動を通して、健康な体と集団としての規律を育成する。
- ・体力向上プランや運動能力調査から、年間を通した取組を行い、体力向上を図る。
- ・活動の方向性を示し、適度な競争意識を与え、賞賛や評価を行い、向上意欲をかき立てる。
- ・危機に対する事前の準備、発生時の初期対応、早期解決を組織で適切に図っていく。
- ・防災教育や避難訓練を通じ、児童の危機予測・事故回避能力を育成し、防災意識を高める。
- ・児童理解、生徒指導、健康安全教育、食教育を充実し、安全・安心・快適な学びの場とする。
- ・健康調査を行い、早寝・早起き・朝食摂取など基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・家庭と連携して、ゲーム・メディア依存症を予防する。

9 全ての教育活動の基盤

(1) 子どもの命を守ること

- ・児童一人一人の大切な命を預かっているという意識を強く持つ。
- ・安全義務違反を怠らず、常に子どもの安全・安心を第一に考える。
- ・危機管理意識を持ち、迅速な報告・連絡・相談を行い、解決に向けた組織的対応を行う。

(2) 信頼関係の構築

- ・教育公務員としての自覚と責任を持ち、範となる振る舞いや率先垂範に心がける。
- ・学校と家庭が、素早い連絡や相談を誠実・親身に行い、安心感を与え、信頼関係を築く。
- ・学校評価や各種外部委員の指導助言を学校運営に反映し、教育の質的向上を図る

(3) 家庭・地域との連携による開かれた学校

- ・各種情報の積極的な発信、年間を通した学校公開、地域の人材活用を行い、家庭や地域が、子どもたちを通わせたい開かれた学校づくりを進める。
- ・幼保小中や小小との情報・行動連携、公民館や地域との交流を通し、教育のつながりを広げる。

(4) 教職員相互連携による組織的な学校運営

- ・学校全体での取組の共通理解をし、実践の徹底と継続を行い、組織的な学校運営を図る。
- ・各種会議や委員会・部会を計画的に開催し、校風の継承改善を図り、組織を活性化する。

(5) 業務改善

- ・校務の合理化や効率化を工夫し、業務改善を行い、働き方改革を推進する。
- ・業務改善を図ることで児童と向き合う時間を確保する。